

日本人英語学習者の関係節習得再考：「潜在ランク理論」を応用して

大場浩正（上越教育大学）

本研究では、日本人英語学習者の関係節の習得過程を、新しいテスト理論である「潜在ランク理論」(Shojima, 2008, 2009) を用いて再検討した。「文法性判断テスト」の結果に基づいて学習者の習得段階を 10 ランクに分けたところ、ほとんどの文法的及び非文法的な関係節はランク 10 の学習者に正しく判断されたが、ランク 10 の学習者でさえ学習が困難であった項目は、間接疑問を除く「下接の条件」違反の関係節であった。このことから、関係節の学習がかなり進んだ学習者にとっても「下接の条件」違反の関係節を正しく排除することは難しい事が分かり、「潜在ランク理論」を用いたデータ分析方法の有効性が確認された。